



母と子

最近ニュースで、母親による虐待で子どもの命が奪われたということを知ることがあります。また、逆に子どもが母親を殺すといったニュースも聞くこともあります。本当に辛く、暗いニュースで、絶対に起きてはならない出来事です。本来の母親と子どもとの関係はそのようなものではないはずです。ここで、母親と子どもとの関係について考えてみましょう。



- ・ 幼児期に母親から、やさしくお乳をのませてもらった生活体験があるかどうか、母親の膝の上で抱かれながら、柔らかい言葉かけをもらったことがあるかどうか、母親に添い寝してもらいながら、子守歌の一つも聞いたことがあるかどうか、これらの親子のあたたかい接触と信頼関係を持ちえた子どもは非行化しにくい。もし非行化しても偶発性、一過性の非行として早く立ち直ることができる。

「もう一つの少年期」 北海道家庭学校 藤田俊二著

- ・ 日本の母親ほど辛抱強く愛情に富み、子どもに尽くす母親はいない。

大森貝塚を発見したエドワード・モースの日記から

- ・ 世界中何億のすべての人が「あの子はだめだ」と見放し、見捨ててしまっても、見放すことも、見捨てることもしない最後の人、それがお母さん。

東井義雄（教育者）

- ・ よく抱っこされた子は、甘えん坊で一見弱々しく見えて、実のところ、強くたくましく育つ。その影響は、大人になってからも持続するほどである。

「愛着障害～子ども時代を引きずる人々～」岡田尊司 光文社新書

これらの言葉は、母親と子どもとの関係について考えさせられます。

皆さんは、「愛着」という言葉を聞かれたことがあるでしょうか？

「愛着」とは、“人間が幸福に生きていくうえで最も大切なもの、そして人と人との絆を結ぶ能力であり、人格のもっとも土台の部分形成しているもの（「愛着障害～子ども時代を引きずる人々～」岡田尊司 光文社新書）”とされています。そのような愛着を子どもが生まれて最初に関係を築くのが母親なのです。

子どもは生まれ、すぐに母親に抱いてもらい、見つめ合い、微笑み合うことで安心感や信頼感を身体で覚えていきます。そのようにして、母親と愛着が十分築かれた子どもは、成長していくとともに少しずつ外の世界に出て行けるようになり、親の目が届かないところでも安心して活動することができるようになります。このような心の安定が、子どもの社会性を育てていきます。

子どもにとって、母親の存在に勝るものはありません。“子どもは母親から生まれてくる”ということは不変の真理で、お母さんは子どもにとっては、唯一無二の存在なのです。子どもと一緒にいるときにも、スマホばかり目を向けているお母さんを時々見ます。スマホではなく、子どもに目を向け、話しかけてやるようにしましょう。子どもは、そんなお母さんの微笑とやさしい声を待っていますよ。